



今月は「シリア」を覚えてお祈りください

シリアは中東・西アジアの共和制国家。北にトルコ、東にイラク、南にヨルダン、西にレバノン、南西にイスラエルと国境を接し、北西は東地中海に面する。首都はダマスカス。

2011年の反体制デモは、今日も続いている内戦につながった。推定40万人が死亡し、400万人以上が難民として逃げ出し、紛争は今も続いている。人口の半数は戦闘のために国内避難民になった。政府軍は都市部を爆撃し、大量虐殺を行ったために、反体制派勢力はシリア政府による爆撃と暴力に挑戦している状況だ。化学兵器も使用されているため、国際社会からの強い非難を受けている。

行き詰まりに対する解決策はまだ見つからないが、血が流れる戦いは続いている。この戦争は時にはイラクやトルコへも流出している。何よりも、暴力の終結とともに、シリア人が生活と国家を再建する機会を与える解決策が必要だ。

シリアのその他の情報

面積：185,180 km² (日本の約半分) 人口：18,275,704 (日本の約14.5% 2020年時点)



首都「ダマスカス」



シリア戦争の被害の様子

宗教：	
イスラム教	90.00%
キリスト教	6.34%
その他	2.25%
無宗教	1.40%
バハイー教	0.01%

「主は地の果てまでも戦いをやめさせ、弓をへし折り、槍を断ち切り、戦車を火で焼かれた。」 詩篇 46:9

祈禱課題

未伝部族・民族を覚えて

イスラム・スンニ派に属するアラブ人—彼らの大多数は福音を一度も聞いたことがない。
 イスラム・アラウィー派の人々—シリア北西の海岸地域に居住するシーア派の一分派。大統領候補者を輩出している少数派の民族。彼らは軍や政府に強い影響力を持っている。正統的なイスラムの教えから枝分かれして、キリスト教に通ずる可能性をもつ教えを信じている。
 イスラム・ドゥルーズ派の人々—シーア・イスマイール派の一分派。シリアの南に住む彼らもイスラムから密かに枝分かれしている。接触するのに困難とされてきたが、近年は応答が増えており、少数だがクリスチャンたちがいることが確認されている。
 クルド族—北や北東に住むこの民族は普通のアラブ人たちに比べて受容的であるとされている。この民族の中には少数の正教会キリスト教徒がいる。大多数はイスラム・スンニ派に属している。
 ベドウィン人、チェルケス人、トウルクメン人、ジプシー(ロマ)人—これらの部族のほとんどが未伝である。ジプシー人やベドウィン人に対してはクリスチャンの働き人が数名働いている。

中東におけるシリアの立場と役割を覚えて

新しい大統領は若くして立ち、経済的な課題、少数民族との複雑な関係など、シリアがしっかりと立っていくために乗り越えなければならないことが多い。中東における完全な平和は、シリアの介入なくして訪れることはないと考えられている。神がシリアを用いて中東に平和をもたらせてくださるよう祈らなければならない。

シリアでは少数であるキリスト教徒たちを覚えて

シリアのクリスチャンたちは他の中東の国々に比べて自由で安定した生活を送ることができる。正教会とカトリック教会はイスラム教が国に広がる前からシリアに存在しており、教会には多くの敬虔なクリスチャンがいる。クリスチャンの多くはアラブ人だが、アルメニア人クリスチャンコミュニティも存在する。クリスチャンたちの多くは都市部に集中している。しかし、家をもつことや就職することは差別もあって難しいのが現状だ。実際的な信教の自由が認められなければならない。